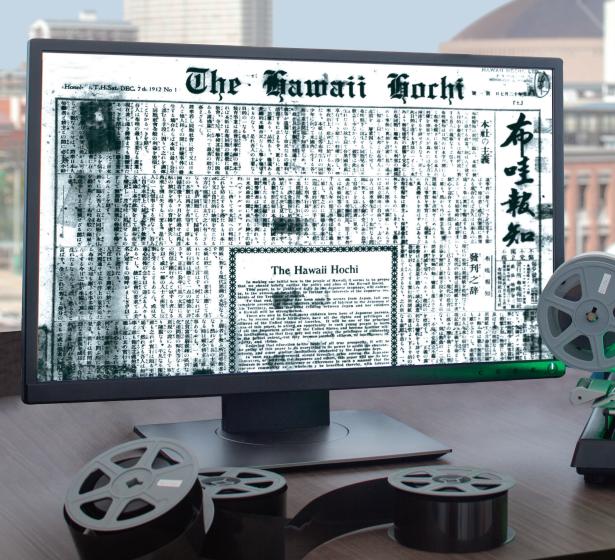
罗章馆報 —Seinan Toshokan pou

2022. April No.192



部記 新入生にイチ押しの1冊

1 明恵さんのこと(2)一夢を生きる一 図書館長 古田 雅憲

2 ブックレビュー

『ブロトタイプシティ』 経済学部 国際経済学科 教授 東 茂樹 『ライ麦畑でつかまえて』 図書情報課 井出 夏夫 『奥のほそ道』

文学研究科英文学専攻 博士前期課程 卒業生 有須田 真衣 『チーズはどこへ消えた?』

法学部 法律学科 卒業生 児玉 智空

3-4 世界の図書館

オーテピア高知図書館 大学院課 副課長 山下 大輔

5-6 図書館から学修支援を考える

ラーニングサポートデスクから 見た学修支援について 図書情報課 篠崎 結衣 7 | 蔵書ギャラリー no.32

国際文化学部 国際文化学科 准教授 大原関 一浩

SEINAN GAKUIN UNIVERSITY

明恵さんのこと(2) ―夢を生きる―

図書館長 古田 雅憲

こんな夢を見た。

見上げると宙に羊が浮かんでいる。羊はゆらゆら様子を変え てぼんやり光る球体になったかと思うと、やがて人間の姿に なった。宝冠を着けた貴人のようでもあり下人のようでもある。

地に降り立った彼人は何やら私に話しかけたそうにしてい る。そばにいた喜海君が「気持ちが悪いから、先生、こいつに関 わるのはやめましょう」と言ったが、私は心惹かれずにはいられ ない。彼人は人の生死を掌る星の化生だ。聞いてみたいことが ある――と、先に「お前もひとかどの坊主なんだろう。それなら 人から施しを受けてるようじゃどうもいけない」と彼人が言う。 見すかされてうなずくしかない。

それからやっと「死んだら私はどうなるんでしょう」と聞いた。 こともなげに「天上世界に転生するよ」と彼人が言う。「修行の 果報は得られますやら」と聞いたら「勿論さ。そんなにくよくよし なくったって」と真顔で返す。すこし安心したが(極楽往生まち がいなしと分かったからって、まさかお前さん、それで安心して この世の務めを果たせますなんて言うんじゃなかろうね)と また見すかされた気がした。そこで「これからも見守っていてく ださいね」と念を押したら「分かっているよ」と彼人がうなずい た、と見るや目が覚めた。

-もちろん漱石居士の『夢十夜』ではない。悪戯心にそれ めかして意訳したが、これは明恵さんが承久2(1220)年9月 20日の夜に見た夢の話である。「喜海君」とは高弟・義林房 喜海(ぎりんぼうきかい)のことだ。

明恵さんは19歳の頃から60歳で亡くなる前の年まで、40年 の長きにわたって自身が見た夢を一つひとつ丁寧に記録し 続けた。その夢日記の約半分が今日まで伝わっているらしい。 そのなかにはいかにも僧侶らしい宗教的な話も多いが、一方 で世俗的な話もたくさん見える。たとえば「ふるさとの夢」「母と 姉妹の夢」「黒犬を飼う夢」「白鷺を撃つ夢」「塔を昇る夢」「大 河を渡る夢」「龍宮に行く夢」「狼に食われる夢」「病気の夢」 「糞穢の夢」「性夢」などなど。みずから夢解釈をすることも 多い。どんな夢でも現(うつつ)同様、すべて大切な経験として 自身の生に繋げようとする思いの表れなのだろう。

それらのうち高山寺に伝わった分を綴り合わせたのが『夢 記』(ゆめのき)である。上の夢もそのうちの一篇だ――時に 明恵さん48歳。前年正月に将軍実朝が暗殺されて世情は不 穏な気配を帯びていたが、明恵さんの周辺では念願の高山寺 金堂が落成するなどして師弟の修行は充実期を迎えていた。実 生活において自信に満ちあふれていたはずの明恵さんだの に、夢のなかではめぐる因果の行く末に自信なさげでいるのが 面白い。不安のあまりお星様に願い事をしたというのだから。

この「お星様」とは北極星あるいは北斗七星のことで、彼らは

「万物の命を掌る神」として崇拝されていた――「北極紫微大 帝」とか「妙見菩薩」とも称されて、星々を描いた「星曼荼羅」な どの中央に神仏の姿で描かれたりもする。その点、明恵さんの 夢のなかでは「羊」「光る球体」「貴人」「下人」の姿で自在に現 れて、ずいぶん様子が違っている。(まぁ夢のことだから)と思い もするが、その様子がたとえば『太上除三尸九虫保生経』(8世 紀頃) や『老子守庚申求長生経』(11世紀頃) など道教系経典 に描かれた「三尸(さんし)」の姿と妙に符合していると知れば、 それはそれでちょっと気にはなる。

こういう「物語」がある――私たちの体内には「上尸・中尸・ 下尸」という三匹の虫が棲んでいる。虫どもは庚申(かのえさ る)の日の深夜、当人が眠り込んだのを見計らって身体から抜 け出すや天帝様(北極星・北斗七星)の許へ翔け昇り、その人 の犯した悪事の数々を密告するのだ。その罪科の多寡に従っ て当人の寿命が大いに縮む。さあ、これは困った。だから庚申 の晩は寝ずに過ごして寿命が縮むのを防ぐことになったとか -今日に「庚申待ち(こうしんまち)」として伝わる風俗の「始

まりの物語」である。

このような庚申信仰における三 尸像理解のありさまを伝えるのが 『求長生経』などに描かれた図像*1 である。まさしく「冠を着けた貴人」 のような上尸や「羊」のような下尸 が霊雲に乗って空を飛んでいる。 求長生経の上尸図



明恵さんの夢に現れたお星様の、その表現の下敷としてこれ らの図像を直に宛てるのは飛躍がすぎようが、彼が見た夢もま た、こういう時代の社会と文化のありように根ざす「物語」の一 片であるには違いない。



同·下尸図

私たちは「物語」を読むことに よって自身の生を相対化し、世 界の新しいとらえ方を手に入れ る契機を得るものだが、「物語」 が覚醒時に経験する非日常的・ 非現実的なビジョンであり、 「夢」が睡眠時に経験する非日

常的・非現実的なビジョンであるとするならば、私たちの生に とって「物語」と「夢」は等しく価値ある体験だ――河合隼雄さ んは明恵さんを評して「夢を生きる」とおっしゃった *2が、私た ちもまた「物語を生き、夢を生きている」のだった。

参考資料

- 1) 本文中の図版二種はいずれも谷川健一(著者代表)(1983)『太陽と月(日本民俗文化大 系第2巻)』(小学館)p.175(撮影:萩原秀三郎)から引用した。図書館所蔵[5階E:ブックツ リー外回り380/82/10-2]
- 2) 河合隼雄(1987) 『明恵 夢を生きる」 (京都松柏社) 図書館所蔵 [4階B: 通常書架 188/32/11



新入生にイチ押しの1冊



『プロトタイプシティ』

高須正和、高口康太編著 KADOKAWA 2020年 (3階 E:ブックツリー外回り(バソコン関係) 007/3/820) 経済学部 国際経済学科 教授 東 茂樹



中国では、モバイルインターネットを活用したサービスが張り巡らされており、現金を持たずに何不自由なく生活できる。銀行口座や融資といった金融サービスの利用は一部の国有企業に限られていたが、オンラインでの商品の売買を実現するために、キャッシュレス決済が急速に普及した。これは、新興国において既存サービスがなかったところに、いきなり新しいサービスが登場するリープフロッグ(カエル跳び)と呼ばれる現象である。

中国における産業構造の変化は、モバイル決済を活用したスーパーアプリからシェアリングエコノミーにつながるサービスの拡大にとどまらない。ハードウェアのスタートアップにおいても、ユニコーン企業が続々と誕生している。物づくりと言えば日本企業の得意分野ではなかったのか?改革・開放の経済特区としてスタートした中国の深圳は、もはや先進国企業の下請け工場が集積している場所ではない。現在は、計画を立てるよりも先に手を動かして試作品(プロトタイプ)を作る人や企業が勝利する時代であり、プロトタイプ駆動によるイノベーションを生み出す場が深圳である。詳しくは、本書を精読してください。

西南大生の皆さん、ゆでガエルにならないように気をつけましょう!

『ライ麦畑でつかまえて』

J.D.サリンシャー著 野崎孝駅 白水社 1984年 (6階 C:通常書架 933/Sa53/1B) 図書情報課 井出 夏夫



私がこの本と出合ったのは、大学生の頃でした。大学1年の 英語の授業でJ.D.サリンジャー著のナイン・ストーリーズを英 文で読む機会があり、海外へのあこがれもあり、なんとなく作者 であるJ.D.サリンジャーに興味をもち「ライ麦畑でつかまえて」 を読んでみました。時代背景や文化の違うアメリカが舞台の小 説ですが、「大人になりたくないけど子供のままではいたくない」 といった若者独特のアンバランスな感じに共感したのを思い出 します。発表から70年以上経つ作品ですが、いまだに多くの人 に読まれている名作の一つです。若い時期に一度は読んでおく べきおすすめの作品です。図書館には、同じ「ライ麦畑でつかま えて」の村上春樹訳の本も所蔵していますので読み比べてみる と、表現の仕方や解釈の違いがあって面白いかもしれません。 また、英文本も所蔵していますので、日本語訳と英語の原文と で比べながら読んでみると語学のスキルアップにもつながりま す。図書館にはベストセラーもたくさん所蔵していますし、海外 の名作も所蔵しています。大学入学を機会にぜひ海外の名作 に触れてみてはいかがでしょうか。

『奥のほそ道』

リチャード・フラナガン著 渡辺佐智江訳 白水社 2018年 (6階 C:通常書架 933/F31/3)

文学研究科 英文学専攻 博士前期課程 卒業生有須田 真衣



「すばらしい本を読むと、自分の心を読み直さずにはいられなくなる」これは、本作の主人公が語った言葉です。読み終えた後、過去の自分・現在の自分を問い直さずにはいられなくなる、これはまさにそんな本でした。

『奥のほそ道』という題名を聞くと「松尾芭蕉?」と思う方もいらっしゃるかもしれません。ですがこの小説は、第二次世界大戦期に旧日本軍がタイとビルマを結ぶために建設した、泰緬鉄道におけるオーストラリア人捕虜の体験を描いた作品です。想像を絶する環境下で、国も立場も文化的背景も違う、オーストラリア・朝鮮・日本の兵士たちは何を見て、何を思いながら戦中・戦後を生き抜いたのか…?彼らの心情を丁寧に追いながら、加害者・被害者の枠組みを越えた戦争の記憶、それに至る帝国主義や植民地支配の記憶が紡ぎだされていきます。

第二次世界大戦の終焉から長い年月が流れた現在においても世界中で続く分断や対立。この本は、そのような分断や対立を乗り越えるために必要不可欠な視点を与えてくれる気がします。やや手に取りにくい本かもしれませんが、見かけた際はぜひご覧になってください。

多忙な大学生活のなかにいると、授業や就活に直結するような本ばかりを手にしがちですが、時には小説に許された想像力による文学の世界で、遠い他者や自分に向き合う時間をとってみませんか?

『チーズはどこへ消えた?』

スペンサー・ジョンソン著門田美鈴駅 扶桑社 2000年 (6階 C:通常書架 933/J72/2B) 法学部 法律学科 卒業生 児玉 智空



「いつからだろう。変化すること、夢を語ることを恐れるようになったのは。」

皆さんはこのように感じたことはないでしょうか。ある程度年齢を取ってくると周りに身を任せて行動する方が楽だと感じる時が多いと思います。だからこそ、人と違う行動を取ることや変化に対して恐怖を感じたりするものです。しかし、逆に幼い頃は何にでもなれると思っていませんでしたか。男の子であれば、仮面ライダー、女の子であればプリキュアなど今となっては笑ってしまうほどの壮大な夢を抱いていた時期があったのではないでしょうか。

確かに夢を追い続けることは大変です。ですが、オリンピック選手やM-1グランプリなどに出ている芸人がなぜ他人を感動させられるか。それはその人たちがひたすら自分を信じ、夢を追いかけてきたからではないでしょうか。

これから先の時代、いまよりもきっと多様性・変化を求められる時代がくると思います。そこで本書は、人生の大切な分岐点・変化を求められる際にきっと皆さんの背中を押してくれる1冊となっていると思います。みなさんが変化することに対して不安を感じた時に是非読んでいただきたい1冊です。

是非、変化を楽しめる人生を。

世界の図書館

世界の図書館は、図書館報2006年10月号(No.161) から続く連載企画です。

多様な図書館像を知ること、建築表象としての図書館 イメージを紹介することを目的としています。

今回は、コロナ禍における特別企画として、国内で注目 を集める公共図書館をご紹介します。

[国内編]

オーテピア高知図書館

高知県高知市追手筋2-1-1 https://otepia.kochi.jp/library/

大学院課 副課長

山下 大輔

2 020年2月に高知県高知市にある「オーテピア」を訪問させていただきました。不規則な色で並ぶリーフルーバーに目を引かれる外観のこの建物は、2018年7月に開館し、「オーテピア高知図書館」「オーテピア高知声と点字の図書館」「高知みらい科学館」の3つの施設からなる複合施設です。中核施設であるオーテピア高知図書館は、「高知県立図書館」と「高知市立市民図書館本館」が一つの建物内において共同でサービス・運営にあたるという、日本で初めての取り組みが展開されています。私は、前職が公共図書館司書であったこともあって、本来役割の共なる図書館が融合することによるイノベーションの現場を見てみたいと強く思い、見学ツアーに参加しました。

ちなみに、図書館の名称のオーテピアは、追手前小学校跡地の建設場所にちなんだ「オーテ」と、多くの仲間が集い利用される場にとの願いから、英語で仲間を表す「ピア」を組み合わせたものとのこと。訪問前は、楽しい響きの言葉だなと感じていた程度なのですが、由来を聞き、地元に根差しつつ、新鮮で、ちょっと気になる名称をつけることも、ブランディングの大事な要素の一つだと実感しました。

年間来館者数は約100万人とのことで、本学西南 学院大学図書館の入館者が年間約70万人であるこ とと比較しても、かなり多くの方が来館されています。 実際に見学に訪れた日も、多くの市民の方で館内は 賑わっていました。



[写真2 西南学院大学図書館 設計イメージ図]

オーテピア高知図書館が非常に魅力ある図書館であることは、ここまでの説明でも十分伝わったのではないかと思います。公共図書館を経験した一司書として、距離を超え、ぜひ訪れてみたいと感じ、コロナ禍が迫る中、ぎりぎりのところで訪問することが出来ました。

そして、もう一つ、この図書館に私が興味を覚えた 理由があります。それは、西南学院大学図書館と設 計者が同じ株式会社佐藤総合計画なのです。設計 チームは異なりますが、2017年開館の本学図書館 とオーテピア高知図書館は検討、設計、建築まで含 めると、かなりの時期を重なって検討されています。 設計コンセプトにも共通点があり、非常に興味深い です。下に両館の設計コンセプト図を掲載してい ます。興味深いことに、両館ともに樹木をモチーフと し、中心に本の幹があり、その周辺で人々が活動す る様子を描いています。オーテピア高知図書館では、 「まんなか書庫」が図書館の幹となり、本学図書館で は「ブックツリー」が図書館の幹となっています。設計 思想、仕様目的、利用者層、全てが異なる図書館で すが、ぜひ両館を訪れ、その共通点と相違について も、楽しんでみてはいかがでしょうか。オーテピア高 知図書館は、市民が集い活動する場所として、非常 に明るく活発な雰囲気を作り出しています。一方、本 学は、学生が静かに落ち着いて学修する環境を作る ことを目指し、静かに落ち着いた環境が創られてい ます。

オーテピアの基本理念は、4つの知がひとつの幹に寄り添う「大きな機を育む」ような施設づくりという考え方のもとに、次の3点とのこと。

①帯屋町や追手筋からの人を迎え入れ「にぎわいをつくる」

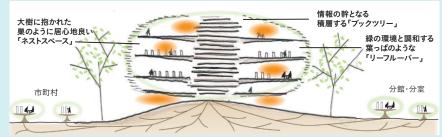


- ・四方からの来館者の動線を確保
- ・裏面のない、周辺のまちなみになじむ外観 ②県民・市民が自ら使いこなす「愛着のある施設」
- わかりやすいフロア構成
- ・すべての利用者がスムーズに使えるユニバーサル デザイン

③災害時にも「安心・安全な場所をつくる」

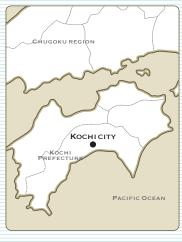
- ・地震の揺れを軽減する免震構造
- ・緊急避難場所(津波避難ビル)としての機能の確保 二つの同じ時期に作られた図書館は、外観においても、それぞれ特徴的な個性を発揮しています。右上 のオーテピアの写真をご覧になっていただきたいのですが、リーフルーバーと呼ばれる樹木の葉のような設備が設置されています。一件不秩序な色合いの変化が楽しく、また、このリーフルーバーによって、館内には適度に優しい光が入る構造になっています。

館内に入ると、明るく開放的な雰囲気のフロアが 展開されています。県立図書館と市立図書館が融合 していることもあり、資料やサービス提供の側面においても、様々な工夫がなされていることを感じること が出来ます。まずは、その特徴的な「まんなか書庫」で す。利用者が自由に出入りが可能なスペースから も、多くの資料が保存されていることを垣間見ること



[写真3 オーテピア高知図書館 設計イメージ図]





オーテピア高知図書館

旧追手前小学校のシンボルだったソテツの木をモチーフにしています。 書籍を表した3本の線で、情報や知識が蓄積されていく様を表現するとともに、人々 の教養や生活がより高みへ上昇する様がデザインされたものです。シンプルな造形 の中に、知的・文化的施設としての落ち着いた佇まいと品格が表現されています。

日本

が出来る構造になっています。訪問当時、自由に 散策してみると、不思議とどこを歩いてもたどり着け ないスペースとして、気になりました。県立図書館として の保存機能を保ちつつ、その存在を広く知らしめる 工夫だと思います。

3階には、高知資料コーナー、ビジネス・科学・ 産業・農業といった比較的専門性の高いコーナー が並んでいます。また、展示室では、所蔵する貴重 書の展示が行われており、教育活動にも力を入れ ていることを感じることができました。

一方4階には、ホール、学習室、研修室等の設備が整備されており、市民の交流の場として活用されているようです。2階には、一般書のコーナーと、こどものためのコーナーが整備されています。市立図書館としての機能と交流空間としての機能が、間にある県立図書館としての機能を包み込んでいるようなイメージでしょうか。

「県立図書館」と「市立図書館」は、そもそもその 役割分担は難しいことは、図書館業界では知られ ています。まず、それは明確な役割分担について、 明文化された全国的な(法的な)ルールが存在し ないことがあげられます。各地の図書館は、「前線 で市民に対応する」市町村立図書館、「後方で各 図書館を支援する」県立図書館という工夫を行っ てきました。しかしながら、資料を収集し、保存し、 提供するという根本的な役割は変わらず、その色 分けを明確化し、市民に説明することは、とても難 しい側面を持っています。

そのような中で日本で初めて建物が融合されたこの施設について、私は、期待を持つとともに、 懐疑的な印象も持っていました。しかしながら、 実際に訪れてみると、確固たる人的資源に支えら れ、それぞれの役割を尊重しつつ、お互いを包み あう構造に強い印象を受けました。

利用者としての目線に立てば、説明されなければ、2つの役割を担っている施設であることは一見分かりません。色合いの違うフロアがあり、豊富に準備されたサービスカウンターが各所にあり、必要に応じたサポートが提供される居心地のよい図書館だと感じます。一度訪れただけの一図書館員の印象ですが、利用者は、その要求や目的を最初に接触した司書や建物そのものの空間設計からスムーズに導きだされ、知らず知らずのうちに、必要な資料や設備、人的サポートへと誘導されていくのではないかと思います。

異なる組織に所属する人々が活躍する施設です。サステナブルなものにしていくためには、多大なる苦労があるものと推察します。しかし、自治体運営も苦しい中で、文化行政については縮小されることも多い中で、この新しい取り組みが、新しい取り組みを模索し、誘発し、成長していくことを期待したいと思います。

暫く時がたった後、強く再訪したいと思った図 書館です。皆様も、ぜひ機会がありましたら訪れて みてください。

最後にこの図書館を視察して、思い出したインドの有名な図書館学者ランガナータンが提唱した「図書館学五原則」のうちの一つを紹介しておきたいと思います。

- 図書館は成長する有機体である -

私たちの図書館も、古い常識に捕らわれず、同じくめきめきと成長する樹木でありたいと強く願う次第です。



「写真4 ビジネス・科学・産業・農業スペース (3階)]



[写真5 一般書や雑誌コーナーのある2階 明るく開放的な雰囲気右上のエリアは「まんなか書庫」]

高知市

四国南部のほぼ中央に位置し、北方には 急峻な四国山地があり、北山に源を発す る鏡川の下流域を中心に都市が形成されています。1998年4月には、四国で最初の中核市に移行した。また、2005年に 鏡村、土佐山村と、2008年に春野町とそれぞれ合併し、山間地域、田園地域、都市部のバランスの取れた構成となり、南四国の発展を支えています。

人口:約32万人



高知駅前の幕末の三志士像

- オーテピア -

用 途/図書館、視覚障害者情報支援 拠点施設、科学館

建築 主/高知県

管 理/高知市

運 営/高知県及び高知市

所 在 地/高知市追手筋2丁目1番1号

敷地面積/6,605.76㎡

(多目的広場・遊歩道を含む)

建築面積/4,345.26㎡

延床面積/23,715.52㎡

うちオーテピア高知図書館 17.780.72㎡

高 さ/38.51㎡ (高知みらい科学館 プラネタリウムドーム屋根を含む)

階 数/5階(建築基準法上は地上9階、 地下1階)うちオーテピア高知 図書館は1・2・M3・3・M4・4・M5階

講 造/鉄骨造、鉄筋コンクリート造、 鉄骨鉄筋コンクリート造

図書館から学修支援を考える ラーニングサポートデスクから見た学修支援について 図書情報課 篠崎 結衣

大学図書館の業務の中心である「研究支援」と「学修支援」。当館における学修支援の現状を、ラーニングサポートデスクとレファレンスを絡めながら振り返っていきたいと思います。筆者は、社会に出る前である大学生のうちに、正しくアカデミックスキルを身に付けることが必要だと思いますが、この考えを、これを読んでいるみなさんに押し付けるものではありません。あくまでも1人の図書館職員の考えとして読んでもらえると幸いです。

最初に、ラーニングサポートデスクとレファレンスの違いをご説明 いたします。どちらも図書館で提供しているサービスの一つですが、 この違いを考えることやその違いをわかった上で相談する人は少な いと思います。ラーニングサポートは、「学生」が学生の学修に関す る全般の相談に対応するもので、本学の図書館では2階のラーニン グサポートデスクで受け付けています。図書館のホームページでは、 ラーニングサポートデスクを以下のように紹介しています。「大学院 生、学部3年生・4年生のスタッフが、レポートの書き方やまとめ方、 資料の探し方、情報検索の仕方、発表やプレゼンの準備・練習等、 「読む|「書く|「話す|「探す|力を伸ばすためのサポートを行いま す。」一方レファレンスとは、「図書館職員」が、学生の文献検索や図 書館が提供するツール・資料を使った学修の相談に対応するもの で、本学の図書館では1階の総合カウンターやメール等で受け付け ています。ラーニングサポートデスクとレファレンスは、ご自身が 相談したい内容に応じて使い分けて利用していただけたら幸いで す。今回の特集では、ラーニングサポートデスクに特化して述べたい と思います。

図書館がみなさんに身に付けてほしい力

冒頭で、社会に出る前にアカデミックスキルを身に付けてほしいと述べましたが、筆者の考えるアカデミックスキルとは、次の6つです。

- ① 正しいテーマを設定する。
- ② テーマに応じて適当なツールを用いて情報を入手する。
- ③ 得た情報を分析・精査する。
- ④ 情報を元に自分の立場や考えを明らかにする。
- ⑤ その考えを言語化する。
- ⑥ レポートや発表内容にまとめて論理的に人に伝える。

この6つのことは、社会に出てから当たり前のように必要とされていることですが、社会人になってから改めて身につけようとしても、社会はアカデミックスキルだけで考えられる世の中でもなく、それ以外の考え方で物事が進んでいくことも多いため、それらのスキルを身に付けることができる環境ではない人もいるでしょう。しかし、みなさんが今いる大学は、本格的にアカデミックスキルを学べる環境が整って

いる場であり、ラーニングサポートデスクでは大学の中でアカデミックスキルを磨くサポートをしたいと考えています。また、一見すると、図書館は、この6つの段階の中の「②テーマに応じて適当なツールを用いて情報を入手する。」というところのみで関わっているように思われますが、ラーニングサポートデスクはこの流れのすべてをサポートするために存在しています。

また、この6つの段階のうち、最も重要視されるのは、情報を検索する部分だと思います。現代はインターネット技術が進歩しており、膨大な量の情報を得ることができます。インターネットを使った情報収集のメリットとして、手軽に、最新の、幅広い情報を入手できることがありますが、誰もが情報を公開することができるため、嘘の情報や根拠が不確かな情報が混じっていることも少なくありません。正しい情報と正しくない情報を見分けるためにも、有効な情報検索の方法を身につけることが必要とされます。そのため、学生時代に、図書館のデータベースや検索ツールを積極的に利用することで、必要な時に適切なツールで検索できる習慣をつけておくべきであると筆者は考えます。

ラーニングサポートデスクの現状

ここから、ラーニングサポートデスクの現状について説明します。 図書館が考えるラーニングサポートデスクの大きな役割とは、ライティング支援と呼ばれるもので、レポートの書き方やその添削、レポートのテーマが見つからない場合のサポートをすることです。 しかし現状としては、ライティング支援の他にも、学修に関しての様々な質問がありますし、基本的に「学修に関することであれば何でも聞いてください」というスタンスですので、以下のように、レポートに関する内容はもちろんのこと、留学や大学生活に関する相談が寄せられています。

- ・自分の書いたレポートを添削してほしい。
- ・授業で発表する内容やスピーチの内容を見てほしい。
- ・留学について教えてほしい。
- ・履修について相談したい。

ホームページに記載している相談例にも上記のような質問がもちろん含まれていますので、図書館としても、レポートに関すること以外の質問が来ることは想定しています。必要に応じて学内の相談窓口につなげます。

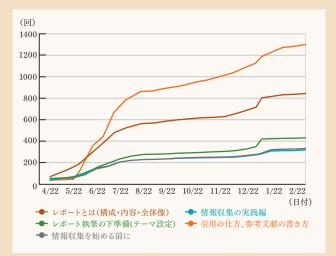
ラーニングサポートデスクには、現在約20名のスタッフがおり、 留学経験を持つ人や学内外の課外活動に積極的に取り組んで いる人、語学学修を得意としている人も多く、スタッフたちはラーニ ングサポートスタッフとして高い意識を持って活動しています。 スタッフが親身になって話を聞き、相談者が解決法を探すサポートをしようと努力しているため、利用者から得られる評価は非常に高いと感じています。また、きちんとしたサポートができるよう、スタッフも事前研修や年に数回、外部講師による研修を受講して学修しているため、スタッフ自身の成長にもつながっていると感じています。

ここで、ラーニングサポートデスクの取り組みの1つをご紹介いたします。図書館ホームページ内に、ラーニングサポートスタッフが丸善雄松堂株式会社の監修の元で2020年度に作成した、レポートの書き方講座の動画コンテンツを5本公開しています。

- ① レポートとは(構成・内容・全体像)
- ② レポート執筆の下準備(テーマ設定)
- ③ 情報収集を始める前に
- ④ 情報収集の実践編
- ⑤ 引用の仕方、参考文献の書き方

動画の再生傾向を見てみると、引用の仕方や参考文献の書き方を 説明した回は再生回数が少しずつ伸びていますが、レポートのテーマ 設定の仕方や情報収集について等の、レポートの根本についての動画 はあまり再生回数が伸びない傾向があります。【図1】この5本の動画 は、レポートの書き方や構成についてとても詳しくまとめてあるため、 レポートの執筆に取り掛かる前に一度ぜひご覧ください。**

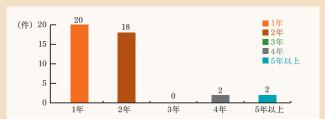
【図1】レポートの書き方講座 視聴回数



課題

ここまで述べてきたように、サポートする環境は整っている一方で、学生たちに十分に活用がされていないように感じています。コロナ禍で、ラーニングサポートデスクを閉鎖する時期も多く、メールでの学修相談を募集していましたが、あまり件数は多くないのが現状です。また、メール相談だけを取って見ると、相談を寄せる学年は1、2年生がほとんどです。【図2】

【図2】メール相談 相談件数



相談に来る人は学修に対する意欲の高い人や本格的に学修・ 研究を進めたいと考えている人が多いように思われます。ラーニング サポートデスクへ相談に来る段階としては、次の3段階に分かれると 考えられます。

- ① まず何をどうやればいいのかわからない、 何から始めればいいかわからない人
- ② やっていることに対して今後どう進めたらいいのかわからない、質を高めるための方法がわからない人
- ③ 自分のやっていることが本当にこれでいいのかわからない、 他の視点はないか確認したい人

②の段階の人は、自分の知りたいことやテーマに対して、自分で調べた情報よりも、もっと詳しい情報や他の情報を知るにはどう調べたらいいかを聞くための相談が考えられますが、この段階の人はなかなか相談には来ていないのが現状です。また、③の段階の人は、自分のやったことで完結してしまい、わざわざ相談に来ることはありません。

図書館としては、これまであまり相談に来たことがない人に、小さな疑問・質問を誰かに相談することによって、解決につながり、大学での学修が楽しいものであること、きちんとした方法で学修すれば難しいものではないことを知ってほしいです。相談者の中でリピーターになる人は、回数を重ねるごとに成長を感じる瞬間がありますし、その人にとっての相談の場をしっかりと果たせていると感じます。筆者自身は学生時代、あまりこのようなライティングサポートの場を利用したことがなく、インターネットで調べたり、授業の先生に相談したりして、レポートを書いたり、発表の準備をしたりしていました。しかしながら、大学内にこのように学修をサポートしてくれる場があり、身近な先輩に相談できるという環境は、みなさんにとって心強いことだと思います。みなさんが大学での学修を通してアカデミックスキルを身に付けていくことを、ラーニングサポートデスクは願っています。

先を見据えた学修

ここまで大学図書館における学修支援について、ラーニングサ ポートの面から考えてきました。みなさんが大学を目指した理由、 大学で勉強する理由は、将来のことを考えてだったり、自分の興味 のある分野について学びたいからであったり、とにかく大学を卒業 しようということであったり、人それぞれだと思います。しかし、大学 生のみなさんはこの先社会に出て働くことになり、これから膨大な 量の情報に触れ、それらを自分で精査し、一つ一つの物事に責任 をもって対応していかなければならなくなります。全てのことに対し て肯定する、信じるのではなく、批評的な思考を持つこと、様々な 考えがあることを理解しておくこと、他人の考えを受け入れ、その 上で自分の意見を持つことが求められます。また、世の中で起こる ことに対して、周りの意見に流されず、自分の意見を持つことはとて も重要なことで、何を根拠にそのような意見を持ったのかはっきり させるために、自分で調べて、正しい情報を得ることが必要です。 図書館はみなさんのスキルアップを支援する場所であり、それを 率先して行っています。

具体的なことは未定ですが、今後西南学院大学の中に、これまでより詳しく、深くみなさんの学修をサポートする仕組みができる予定です。図書館としては、現在ラーニングサポートデスクで行っていることをその仕組みに繋げていきたいと考えています。

※レポートの書き方講座 https://opac.seinan-gu.ac.jp/library/study/learningsupport



ハワイ ほう ち

『布哇報知』マイクロフィルム

[6階 M:視聴覚資料 075/MR/HAW]



【図1】

「移民局結婚司式」1912.12.07, p.1 (創刊号):日本人花嫁に対し、強制的に アメリカ式の結婚式を挙げさせた移民 局を批判している。



【図2】

「芸者連中昨日よりストライキを開始」 1917.07.17, p5.: 芸妓のサービス時間をめ ぐり料理屋と芸妓組合の間でトラブルがお き、ストライキが起きたことを伝えている。



【図3】

「教師悉く送還」1917.08.25, p.1:契約 労働移民として強制送還するという 政府の決定に対し抗議し、連邦裁判所へ 訴える必要性を主張している。



【図4】

「一直線に罷業の成功を期せよ」1920.01.27, p.1:フィリピン人の増給ストに日本人も正式に参加することが決定し、妥協しないで成功させるよう日本人に呼びかけている。

プレルで創刊された『布哇報知』は、100年以上続く ハワイの主要な日本語日刊新聞であり、ハワイの日本 人移民史に関する貴重な文献である。本学のマイクロフィル ムには、ハワイ日本人移民史が「出稼ぎ」から「定住」の時代

に移行する1910年代、創刊号(1912年12月)から1920年 12月までの8年分が収められている。

本紙の創刊者・牧野金三郎は、日本人移民としては異色の背景を持つ人物だった。1877年に英国人の父と日本人の母の間に生まれ、国際色豊かな横浜で成長した牧野は、1899年、二人の兄がいるハワイに移住した。当初は兄・譲の経営する商店を手伝い、その後、砂糖会社に勤め経理として経験を積み、1901年にはホノルルで「牧野薬店」を開店した。その2年後、妻ミチエと結婚し薬店の二階に「牧野法律事務所」を開業した。当時、法律に不慣れな日本人が苦労するのを見た牧野は、彼らを手助けしたいという思いがあったようだ。

ハワイに移住する日本人は、19世紀後半に増加し、その大半が砂糖農園で契約労働に従事した。20世紀初頭までに、日本人はハワイ労働人口の7割を占めていた。1909年、日本人による最初の大規模なストライキが起き、この時牧野は「増給期成会」の委員長として参加している。ストは一定の成果を収めたが、牧野はストを主導した廉で米国政府により逮捕・投獄されている。しだいに日本人社会の指導者として頭角を現していた牧野は、1912年、日本人の声を代弁する新聞の発刊を決意する。それがこの『布哇報知』である。

創刊時から『布哇報知』は、日本人に対する米国政府の理不尽なあつかいを批判した。たとえばこの1910年初頭は、「妻」としてハワイの夫のもとに渡航する日本人女性の数が増えていたが、米国政府は写真の交換だけで結婚し渡航してくる女性たちを正式な「妻」とは認めず、「写真花嫁」たちを「数珠つなぎ」のようにして米国式の結婚式を強制的に挙げさせた。牧野は、個人の信仰や意志を認めない政府に対し、猛烈

な抗議を『布哇報知』創刊号から展開し、最終的に移民局は 写真結婚制度を認め、強制的結婚式の慣例を廃止した。

また牧野は、不当な理由で日本人の入国を拒否する移民局に対しても断固として抗議した。たとえば1917年、ホノルル本願寺が経営する日本語学校に招かれた5名の日本人教師に対し、移民局は「契約労働者」であるという理由で上陸を拒否した。牧野は直ちにアメリカ人弁護士を雇い、連邦地方裁判所に訴えを起こし、教師たちの入国を認めさせた。この事件は連邦最高裁判所まで争われたが、日本人側の勝利に終わった。このように牧野は、米国の法制度を利用して日本人の権利と福利の向上をめざしたのである。

また『布哇報知』は日々、日本人の生活一般に関するさまざまな情報を掲載した。筆者は以前、1910年代ホノルルにおける芸妓稼業とその組合活動について調べたことがある。その時、芸妓に関する記事を『布哇報知』で数多く見つけ、論文で活用した。また1910年代は、日本人移民の多くがハワイ定住を決意し、家庭が増えていた時代でもあり、『布哇報知』には、料理・子育て・教育などをあつかうコラムや情報欄が日々掲載され、日本人の情報交換の場にもなっていた。日本人のハワイ生活への適応過程について、本紙から学べることは多い。

今では遠い昔のことになったが、福岡県からは明治・大正時代、多くの人々が海外各地に出稼ぎのため移住した。ハワイにも福岡にルーツを持つ日系の人々がたくさん住んでいる。福岡で国際文化を学ぶ学生にはぜひ、『布哇報知』を読みながら、近代日本のグローバルな側面、そして福岡と海外のつながりを感じとってもらいたい。

【参考文献】

「フレッド牧野金三郎氏の伝記 - ハワイ報知社を通じて社会に貢献-」その1~3.

Discover Nikkei, http://www.discovernikkei.org/ja/jour-nal/2010/11/29/fred-kinzaburo-makino/ 2022年2月25日閲覧

編集後記

コロナ禍になって3回目の春がやってきました。みなさんはどのようにお過ごしでしょうか。まだまだ様々な面での制限が続く状況ではありますが、2022年度の授業が、基本的に対面授業でのスタートとなったことを嬉しく思っています。みなさんにとって、図書館がよい学びの場でありつつも、少しホッとする場となることを、図書館職員一同願っております。何か不明なことがある際には、お気軽にご相談ください。

 $(Y \cdot S)$

西南学院大学図書館報 No.192

2022年4月30日発行編集 図書館報編集委員会

発行 西南学院大学図書館

〒814-8511 福岡市早良区西新6丁目2番92号 Email lib-jm@seinan-gu.ac.jp

https://opac.seinan-gu.ac.jp/library/ 図書館報バックナンバーも上記サイトに掲載しています。